



**自主防災組織の組織率**  
(平成26年4月現在:下妻市)  
**35.7%**

# 「自主防災組織」をつくろう 万が一への備え

阪神・淡路大震災という大災害から20年が経過しました。その間、新潟県中越地震、広島県や兵庫県での大雨土砂災害、そして4年前の未曾有の東日本大震災と、多くの自然災害が発生してきました。  
阪神・淡路大震災では、ガレキから救出された人の約8割が家族や近所の人に救出されたという報告や、新潟中越地震における旧山古志村(現長岡市)での発災当日に住民全員の安否が確認できたことは、住民同士が相互に協力し合う「共助」の最たる例です。  
平成26年4月現在、下妻市における自主防災組織の組織率は35.7%で、まだまだ低い状況です。今回は、自主防災組織の重要性について紹介します。

## Interview



山尻常会自主防災会  
横島 基義 会長

**結束力がより強くなっている**  
私たちの山尻常会は、昨年9月1日の防災の日に合わせて自主防災会を結成しました。  
以前は、自警消防団と自主防災会の違いがよく分からず、また市でもらった任務分担表を見ると班や個人の役割が多く、皆さん結成に抵抗がありました。しかし、東日本大震災以降、防災や減災について考える人や機会が増え、もう一度市から詳しく話を聞くと、「できる範囲の活動をお願いします」とのことだったので、それを皆さんに説明し納得してもらい結成に至りました。  
これまでの山尻常会という各世帯の代表者のみの集まりでしたが、自主防災会ではそれはいきません。結成して良かったことは、自主防災会では様々な世代の全ての人や、諸団体の皆さんの理解と協力をもって結束力がより強くなっていることだと思います。  
今後は、昼と夜で地区にいる人が変わってくるので、時間帯別の班構成や、皆さんの同意を得られれば全戸の家族構成の情報共有も検討していきたいと思っています。また、防災だけでなく、安心安全な地域づくりのために防犯も合わせて行っていくと考えています。

## 始めました私たちの自主防災組織

市内で最近、結成された自主防災組織を紹介します。

## Interview



肘谷第2自主防災会  
木村 功 会長

### 地域の防災意識を高める

私たちの肘谷地区は、県指定文化財である木造観世音菩薩立像(豆いり観音)があることや小貝川に近いことから、以前から少なからず防災意識はありました。しかし、東日本大震災では大きな被害に遭い、特に停電には大変苦労した記憶があります。  
その経験から昨年2月、肘谷第2自主防災会を設立し、肘谷公民館を地域の避難所に活用しようと考え、LPガスで発電できる「発電機」を購入しました。7月に肘谷自主防災会と合同で行った地域の防災訓練では、公民館のプロパンガスを使った発電機の作動訓練を行いました。プロパンガスで発電できることや発電機で公民館の照明を点灯できることには、皆さん大変満足していました。

消防署や消防団の指導のもとで消防訓練も行いましたが、使用した消防ホースを乾燥させる設備や消火栓の蓋を開ける工具の必要性など、新たな改善点もありました。  
今後肘谷自主防災会と協力しながら、防災訓練を行って防災意識を高めていきたいと考えています。

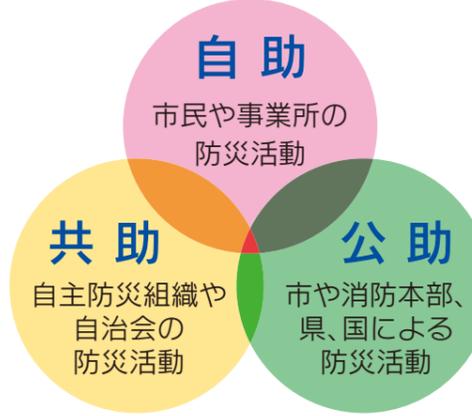
## 連携が重要 「自助・共助・公助」

大規模な災害が発生したときに、被害を最小限に抑えるためには「自助」「共助」「公助」がうまく連携することが重要です。

災害の発生直後は、国や県、市など行政の対応「公助」だけでは限界があり、早期に実行性のある対策をとることが困難な場合も想定されます。

自分の身の安全は自分で守るといふ「自助」とともに、地域や隣人などで協力し合い、お互いを助け合う「共助」が必要です。

「自助」「共助」「公助」がうまく連携することにより、被害の軽減を図ることができます。特に、地域で協力し合う体制や活動にあたる「共助」は、「自主防災組織」が中心となります。



## 自主防災組織は どのようにつくる

「自主防災組織」といっても難しく考えることはありません。組織づくりは、現在の自治区や町内会など組織をそのまま自主防災組織として結成することもできます。それぞれの地域の実情に合わせてつくるのが大切です。組織づくりに関する規約や役員名簿の作成などは、市役所本庁舎の消防交通課にご相談ください。

## 自主防災組織の 結成・活動への支援

市では、自主防災組織の結成や活動に対して支援しています。

組織を結成するとき	資料作成など自主防災組織の結成に係る費用 助成額: 3万円(一律)
資機材や備蓄食料を整備するとき	自主防災組織の資機材(備品等)の整備に係る費用 助成額: 資機材整備費の1/2(上限額10万円・1回限り)
ホース格納箱を設置するとき	ホース格納箱の設置及び修繕に係る費用 助成額: 設置費用の1/2(上限額10万円)

## 自主防災組織とは

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯に基づき、災害から自分・家族・地域の安全を守る「共助」の活動を行う組織です。

この組織は、自治会や町内会などの地域で生活環境を共有している住民などにより、地域の主体的な活動として結成・運営されることが望ましいとされています。

## 自主防災組織の活動

### 【平常時の活動】

災害に備えた取り組みを行います  
地域での防災訓練の実施や市の防災訓練への参加、備蓄資機材の点検や整備、危険箇所の把握、県・市で行う研修会や講演会への参加など

### 【災害時の活動】

災害の被害を最小限に抑える活動や、まちの復旧・復興に向けた取り組みを行います  
火災時の初期消火や消防車両の誘導、台風や大雨などによる災害または地震災害時には住民の避難誘導や救出救護、避難行動要支援者の補助など

## 防災啓発研修会(自主防災組織リーダー研修会)に参加しよう

茨城県と下妻市は、地域防災の中核となる自主防災組織の新規結成や活動の促進を図るため、その中心的な役割を担う防災リーダーの育成を目的とした研修会を開催します。  
どなたでも参加できます。

**日時**  
2月27日(金)  
午後1時30分～午後4時

**会場**  
下妻市民文化会館  
下妻市本城町3丁目36番地  
☎43-2118

**内容**  
【講演1】  
「大規模な地震・津波災害」に備える  
～気象庁勤務の経験から～  
●講師: 鉢嶺猛氏  
(元東京管区気象台長・元気象庁地震火山部地震津波監視課長)

**【講演2】**  
気象庁が進めている防災に係る施策について  
●講師: 水戸地方気象台職員

**【事例紹介】**  
自主防災組織の活動事例として、地域防災への女性の参加・自主防災会の再構築とコミュニケーションづくり・自主防災組織の活性化

問い合わせ  
消防交通課 ☎43-2119